

平成28年度 横浜市立日野南小学校「交通バリアフリー教室」の実施報告

はじめに

- 横浜市では、福祉の視点からバスへの関心を啓発し、利用を促進するため「交通バリアフリー教室」を行っています。日野南小学校では、神奈川中央交通と連携し実施しました。
- 日野南小学校は、港南台駅、本郷台駅のどちらの駅にも直線距離で約1.3kmと歩くには少し遠く、最寄りバス停からは徒歩5分程度となっています。
- 子どもたちはバスを日常的に利用する環境ではなく、自転車での移動が中心のようです。ただし、バス停の場所や行き先等はよく知っているようでした。

1 交通バリアフリー教室の全体概要

- 交通バリアフリー教室は、横浜市の担当する「バスのバリアフリー」に関する座学とともに、実際のバス車両や車いす等を使った体験プログラムも行われました。
- クラスごとに、①車いす利用体験・介助体験、②バスのバリアフリーに関する座学を交互に学ぶ形式です。
- バリアフリーを始め、バスに関する様々な“知識”と、実際の“体験”を同時に経験することで、子どもたちのこれからの生活の中での「活きた知識」として根付いていくことを期待します。
- 横浜市は、このうち②の座学を担当し、バスのバリアフリーの現状を伝えるとともに、モビリティマネジメントの大切さを伝えました。



■交通バリアフリー教室について

- 【日時】平成28年8月31日(水) 第3・4校時(10:45~12:15)
- 【対象】日野南小学校 4年生1・2組(68名)
- 【内容】①バスを用いた車いす利用体験・介助体験
②バスのバリアフリーに関する座学
→クラスごとに分かれて実施



2 「バスのバリアフリーに関する座学」の内容

- 横浜市の担当した座学では、「もっと知りたいバスのこと」と題して、車いすの方もお年寄りも、誰もが使いやすいバスを実現してきたバリアフリーの現状を中心に授業を行いました。
- その上で、バスの利用者が減少していくと、「バスが将来、無くなってしまふ」可能性もあることを、マンガリーフレットを用いて伝えました。
- また「便利なクルマに頼りすぎず、バスで行ける所はバスで行く」など、心がけてほしいことを、小学生向けマンガリーフレットを用いて伝えました。
- 大人になり、色々な場所で暮らし、活動するようになったときに「クルマばかりに頼ることなく、行き先や状況に応じて、バスを上手に使って暮らす」ことが大切であることを伝え、授業を終えました。

おわりに

- 今回の交通バリアフリー教室を経験して、車いすで移動することの大変さとともに、移動の介助の難しさ、大変さを肌にした子どもたちがたくさんいました。
- 子どもたちがバスへの関心をもち、これからもバスを上手に使い、またバスで困っている人をサポートするきっかけになった「交通バリアフリー教室」となりました。
- 普段は座ることのない運転席に座って、バスの死角を体験したり、運転士さんに直接質問して色々なことを聞いたり、子どもたち自身もいつも以上にバスを身近に感じてくれた1日になったと思います。

■座学に用いた教材

①説明用パワーポイント:もっと知りたい「バス」のこと



②小学生向けマンガリーフレット



学校に普段運行されているバス車両を持ち込み、車いす体験や、運転席からの死角体験を行いました。



バスのスロープを人に乗せた車いすで上るのはかなり大変です。このことを身をもって体験できました。